

平成 28 年度 第 3 回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成 28 年 9 月 29 日 (木) 午後 2 時から 4 時 50 分まで
- 2 会 場 中央図書館 2 階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：10 名 傍聴人：1 名
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、調査担当係長、サービス担当係長、資料担当係長、仲町図書館長 計 6 名
- 4 配付資料
 - ・ 図書館行事等の報告と今後の予定について (資料No.1)
 - ・ 平成 28 年度月別貸出状況について (資料No.2)
 - ・ 広域利用市別貸出状況について (資料No.3)
 - ・ ブックリサイクルについて (資料No.4)
 - ・ 第 3 次小平市子ども読書活動推進計画の進捗状況について (資料No.5)
- 5 議 事 等
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館行事等の報告と今後の予定について (資料 No1)
(これまでの報告)
 - ・ 7 月 24 日 夏休み家族 1 日図書館員の実施。
中央 2 組、地区館 1 組の 9 家族 25 人の参加となった。家族 1 日図書館員は、カウンターだけでなく図書館の裏方なども体験できかなり好評であった。
 - ・ 7 月 28 日の『子ども専用カウンター』開設 「図書館が夏休みの宿題のお手伝いをします」。
初めての試みであったが、第 3 次小平市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもたちの夏休み自由研究や宿題のために活用する本を探したり、調べ方をアドバイスするなどのレファレンスサービスを行うもので、3 回実施した。
 - ・ 8 月 17 日からインターンシップの受入れを行った。
今年は、首都大学 2 人を受入れた。
 - ・ 夜のおはなし会の実施
仲町、津田 7/20 (水)、喜平 8/3(水)、大沼 8/9 (水)、中央 8/24 (水) に行った。夜のおはなし会は、通常のおはなし会と違い、保護者の方も参加できるということで、親子で楽しめることもあり、ともに大盛況だった。特に、中央図書館、喜平図書館は参加者が 100 人を超えた。例年は、中央図書館、津田図書館、大沼図書館の 3 館だったが、昨年から 5 館で実施している。
 - ・ 8 月 24 日、高校生の「図書館バックヤード体験講座」を実施した。
ポスターの作成、図書の配架、整理などを行った。今回は、第 3 次小平市子ども読書活動推進計画においても、重点としているティーンズ、高校生を対象に実施した。
この時期は、図書館体験研修、奉仕体験活動、職場体験、教員研修、見学などがあり、現場は大

変だが、職場体験、キャリア教育という観点から積極的に受け入れている。

- ・9月11日、図書館友の会の主催により、平木靖成さんによる「広辞苑 編集よもやまばなし ― 国語辞典の編集からみた、ことばの移り変わり―」の講演会を開催した。
- ・9月29日 本日、第3回協議会となる。

(本日から次回11月10日までの予定)

- ・10月12日及び10月19日に児童文学紀行講座を実施する。
今年、「絵本で旅するスペイン」を仲町図書館で開催する。
- ・10月22日、ブックリサイクルを予定。
- ・11月5日、なかまちテラスのイルミネーション点灯式を実施する。
昨年に引き続き、職業能力開発総合大学校と大学連携により行う。
- ・11月10日 第4回図書館協議会。

- ・平成27年度月別貸出状況について(資料 No2)
- ・月別館別貸出資料数は、8月末までで670,596点。前年同期より、5,757点減少。
- ・月別館別登録者数は、新規登録者は440人減、月別館別貸出者数は、305人増。

- ・広域利用市別貸出状況について(資料 No3)

広域利用市別貸出は、貸出者数は増加、貸出資料数は減少している。東村山市民の利用が多い。

②市議会9月定例会について

9月議会では、一般質問は26人から70件の質問があった。図書館に直接関係する質問として「市は磁気ループの貸出システムを確立し、聞こえのバリアフリーを進めてください。」の質問が吉瀬議員からあった。具体的には、中央図書館へのカウンター型磁気ループの設置をとの質問だが、図書館からは、図書館ではハンディキャップサービスとして、録音図書の貸出をはじめ、様々なサービスを実施するとともに、毎年、ハンディキャップサービス交流会を開催し、利用者やボランティアの方のご意見、ご要望を伺い、改善に努めている。聴覚障がい者、難聴者の方々へのサービスとしては、全図書館のカウンターに簡易筆談器を用意して対応している。これについては、「ハンディキャップサービスごあんない」の冊子に掲載するとともに、館内にも案内を表示し活用しているが、今後も更なる周知に努め利用者に優しい窓口業務を進めていると答弁した。

また、本会議初日には、森井教育委員長並びに、関口教育長の任期満了に伴い、森井委員の再任、新たに小平第六小学校長 古川正之氏を教育長に任命することについて、市議会の同意を求める議案が市長より提出され、議会の同意がなされた。新制度の内容は、市長が教育長を任命し、今まで4年任期だったが3年となった。これは、市長任期より短くすることにより、市長が在任期間に1回は任命できるように変更した。また、今後市長と教育委員が意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有してより一層民意を反映した教育行政を推進するために市長と教育委員が協議を行うといったものである。10月1日からはこの体制に移行する。

③ブックリサイクルについて(資料 No4)

今年も10月、1月、2月にブックリサイクル事業を行う。昨年度は、約2万8千冊提供した。本年度は3万1千冊数を予定している。市報、HPで広報する。毎年好評であり、開館前から入口に並ぶ光景が見られる。平成22年度からは、全ての図書館内で実施している。

④第3次子ども読書活動推進計画の進捗状況について（資料No5）

（計画について）

・計画の位置付

本計画は努力義務ではあるが、いわゆる法定計画であり「子どもの読書活動の推進に関する法律」の第9条第2項に基づき策定をしている。また他の計画との整合性を図るとともに、小平市における「子ども読書活動の推進」を図るために、展開していく施策の基本的な方向を示すものである。

・計画の目的

本計画は、子どもが心豊かな人間性を育むために、自主的な読書活動を進めることができるよう家庭・学校・地域・図書館等が連携し、小平市における子どもの読書環境の整備・充実を図ることを目的としている。

・計画の対象期間

平成27年度から31年度までの5年間とする。

（進捗状況について）

・構成及び事業本数について

成長過程に合わせた取組として、未就学児、就学児である小・中学生・高校生それぞれの対象ごとに44の施策項目を設定、事業を実施している。

（平成27年度の進捗状況について主なもの）

・未就学児に対する取組について

乳幼児向けの絵本リストの配布および図書館案内、図書館における行事の定期的な開催。

3、4か月健診時に健康センターで、乳児とその親に対して絵本の読み聞かせや図書館案内をし、そこから図書館利用につなげていけるよう努めている。乳幼児から参加できる行事、小学校を卒業するまで参加できるおはなし会を毎週開催している。

また、公民館や幼稚園における保護者に向けての読み聞かせに関する講座など、子どもだけでなく、子どもの身近な大人に対しても働きかけるような取組みに努めた。

第3次計画からの新たな取組としては、おはなし室の開放として、小さな子どものいる親子が図書館を利用しやすいよう、一定の時間おはなし室を解放して自由に絵本を楽しめる場所を提供することを検討し、準備を進めた。これについては、今年度4月より実施している。

来館できない子どもと保護者へのサービスとして、昨年リニューアルオープンした仲町図書館で、おはなし会を毎週土曜日とし、小川西町図書館では年に2回、日曜日におはなし会を開催するなど、働く親を持つ子どもも参加しやすい日にちを設定した。今後も他の図書館においても日や内容の検討をし、働く親を持つ子どもも図書館に来やすいよう努めていく。

リサイクル本の提供は、市内の全公立保育園に対するリサイクル絵本の提供を始め、保育園に通う子どもたちが、少しでも多くの絵本と触れ合うことのできるよう環境整備に努めた。

次に、小学校・中学校・高等学校に対する取組として、本計画では、第2次計画に引き続き

「学校図書館の充実」と「学校図書館と市立図書館との連携」に重点においている。

小・中学校に向けた調べ学習用図書の貸出（特別団体貸出）と配送サービス、小・中学校に対する学校図書館協力員の配置・研修については、平成 22 年度までに全校配置した学校図書館協力員を継続して配置していることにより、学校図書館の整備を進めることができた。学校図書館ボランティアとも役割分担を行うことができ、学校図書館は常に人のいる場所となり、本を読む目的だけでなく休み時間の居場所としても利用されるようになってきた。調べ学習用図書や学級文庫用図書の貸出し、授業や全校集会等でブックトークの実施などの授業支援等、市立図書館と学校との連携に努めた。今後も、引き続き学校図書館の支援を行っていく。

読み聞かせに関する講座の実施として、小平地域教育サポート・ネット事業において、学校支援ボランティアへの読み聞かせ等各種講座の実施などを行っている。

第 3 次計画からの新たな取組としては、レファレンスの充実及び、情報リテラシーの支援があげられる。小学生・中学生に向けては、図書館を有効に活用してもらうため、レファレンスの充実に努めていくこと、学校への団体貸出だけでなく個人個人の調べものに役立つような講座の開催等を検討している。中学生・高校生に向けた取組の充実としては、部活や他の趣味等で忙しくなり、読書離れが進んでしまう世代である中学生・高校生への取り組みの充実については、高校生の要望を取り入れた内容の行事を検討した。指導課が連携を始めている市内の都立高校の協力を得て、行事参加をきっかけに、図書館利用につなげられるように継続的なサービス実施に向けた企画を検討した。

平成 27 年度は、このように、主に、新たな取組の実施に向けての事前調査や準備等に力を入れた。なお、本計画の進捗状況については、本日図書館協議会に報告し、後に市議会議員への配布、図書館ホームページ等で公表をしていく。

最後に、西部市民センター駐車場の一時利用停止について報告する。西部市民センター外壁の改修工事に伴い、本年 11 月から来年 3 月下旬にかけて、駐車場の利用を一時中止する。図書館利用者にもご迷惑をかけるが、窓口等での説明や施設内のポスターの掲示など、利用者には早めに周知する。

（報告事項に関しての質疑・応答）

委員：今年から始めた子供専用カウンターは、子ども読書計画推進計画と絡めて実施していると思うが、参加 7 名とあるが、児童 7 名が利用したということか。

事務局：1 階の児童コーナーに昔からカウンターはあるが、実際今までは活用していなかった。そのカウンターを利用し、職員が対応し児童 7 名が利用した。具体的には、地震の活断層について調べたいなど、色々な調べものの相談に対応した。

委員：周知の仕方だが、なかなか忙しくて来られない子どもたちにどう PR していくのか。例えば各学校にチラシを配布するとか。

事務局：今年初めて実施したので、今後の参考にさせていただきたい。

委員：「図書館だより」の装丁が変わったのか。

事務局：今年から印刷業者が変わり、その印刷方法の変化でそう感じるのではないか。

委員：月別館別貸出一覧で、前年よりマイナスになっているがどうしてなのか。

事務局：小平市だけの傾向ではない。貸出は減ってもレファレンスの件数は増えている。図書館に対する要望の変化と思う。正確な把握は出来ていない。

委員：各資料の統計を迫いかけてみると、平成6年から平成26年までの小平市の人口を貸出冊数で計算した数値が減り続けているがこのあたりは。

事務局：リクエストの件数は増加している。評価として貸出冊数だけで良いのかという意見が、館長協議会等でも出されている。昔は冊数の多い少ないがその図書館の評価につながったが、現在は滞在型の図書館が求められるようになってきた。本来ならば、どれだけの方が図書館に来たのかを押さえなければならぬが、把握するのが難しく、そこが悩ましいところだ。

委員：電子書籍の扱いだが、参考書やビジネス書は書き込みなどできなく良いのではないか

事務局：現状では、課金体系の問題と一般の方が主な対象としていることもあり、公共図書館対応には向いていないのではないかと考えている。

委員：「図書館に対してベストセラーを1年間貸し出さないでくれ。」という文書を図書館に送る話が話題となったが、通知は送られて来たのか。

事務局：昨年の図書館セミナーで新潮社の社長が話されたが、限定的な話で、ベストセラー作家は別として、社会科学系の本などは図書館が購入しないと経営していけないという側面があるので、進んでいないのではないか。

委員：子ども読書活動推進計画について質問する。お話し会の減少傾向について、試みとして小川西町図書館や仲町図書館の土日開催の人数等は分かるか。出張おはなし会等の検討は、実績としてどうなのか。

事務局：小学生の来られる時間帯に開催できるよう検討している。土日開催の人数は、仲町は第1土曜日に絵本の広場を開催しているが10回開催して119人ということで、それなりに効果が出ていると思う。小川西町は日曜日に2回開催しているが、1回目が25人、2回目31人参加している。学校の授業の時間帯や子どもたちの都合のよい時間帯を検証し、また、学年により図書館に来られる日時が違ってくるため地域ごとに検討していくということを見守りサービスの担当者の中で検討している。出張サービスに関しては検討しているがまだ実施の段階まで詰めていない。

委員：滞在型の図書館についてだが、館内のレイアウトを検討し座席数をもっと増やせないか。

事務局：館内レイアウト図を作成し、展示コーナーも増設をした。座席を増やすとなれば予算の問題が関係してくる。今後、各書架を精査する必要があると考える。

副会長：ひとつの方法ではあるが、どこかの一部分をバッサリ切ってレイアウトを考えることも可能ではないか。子どもの人数も減っているので、お話し会の人数が減っているのも理解できる。統計については、人数では表せない質（中身）が大切と感じている。

委員：10月20日の大阪府立図書館のセミナーは、図書館員向けのものか。

事務局：大阪市立図書館の図書館司書のセミナーに、講師として仲町図書館長が参加する。

委員：北側書架撤去はいくらくらいかかったか。

事務局：40万円程度だった。

委員：ライオンは必要か。もっと有効なスペース利用を考えられないか。2階の雄ライオンを1階に持っていか、その逆にするとかすればスペースがさらに活用できる。

事務局：現状では困難である。

委員：閉架がもう1階分あると所蔵がかなり増えていいのだが。

委員：夜のおはなし会はとても参加人数が多いが、お父さんにもPRしてたくさんの方が参加できるようになってもらいたい。

委員：男性の利用者が少ない。ビジネス支援などの充実で男性利用者を増やす努力が必要と思う。

委員：絵本のへやの終わった後、部屋を開放しているのか。通常でもおはなし室を子どもや母親に開放してほしい。

事務局：安全性や管理の面などから常時職員を配置できないので、日常的な開放はできない。

委員：お話し会のスタンプをためると、折り紙などのプレゼントがもらえると以前記憶していたが、現在でもそのようなものはあるのか。

事務局：各館の職員が手造りのプレゼントを作っており、いつも同じものではない。

(2) 協議事項・その他

なし